

菅義偉内閣総理大臣 殿

2020年11月3日
伊方原発をとめる会

原発と日本学術会議に関わる申入書

伊方原発をとめる会は、本年11月1日開催の第10回定期総会の意思に基づき、菅義偉内閣総理大臣に対して、第1に、去る10月26日の、就任後初の所信表明において、原発を推し進めると表明したことに抗議し、原発を廃止すること。第2に、10月1日に、日本学術会議の新規会員6名の任命拒否について抗議し、直ちに任命することを申し入れます。

その理由は、第1に所信表明において「安全最優先で、原子力政策を進めることで、安定的なエネルギー供給を確立します」と述べました。すなわち原発を押し進めるといことです。この態度は、福島原発事故により、今なお原発避難者が苦しみ、自死者まで出ている悲惨な事実や、放射能の汚染で廃墟と化した大地から何も学ぼうとしない態度です。原発に安全はありません。エネルギーの安定供給に原発は必要ありません。原発から出る放射能が「すべての命をそこなう」ことは明らかです。仮に破滅的事故を免れても、使用済み核燃料の最終処分地の目途はなく、「負の遺産」をこれ以上増やすことは到底納得できません。原発を廃止することに、国策を変更することを強く求めます。

第2に、日本学術会議が推薦した6名の候補者を「総合的・俯瞰的観点から任命しなかった」と述べていますが、説明になっていません。また6名の拒否理由も「人事に関する事」を理由に説明を拒否しています。説明を拒否すれば、忖度と委縮の世界が広がります。6名の候補者は、特定秘密法・安保法制・共謀罪などの政府による政策を批判したことがあり、これを理由に拒否したとの推測がなされています。真理を探究する学問に、政府が介入することは許されないことです。学問の自由を侵害するだけでなく、民主主義を破壊します。民主的な国家では、さまざまな意見が提示・議論されることで政治的決定がなされることが必要不可欠だからです。原発の歴史においても、「原子力ムラ」を基盤に、政府が原発に批判的見地の科学者の知見を排除した結果が「安全神話」であり、福島原発事故を招きました。政権の利害に合わないからといって排除すれば、民主主義は破壊され、結局は国民が被害者となります。ここに任命拒否に強く抗議し、速やかに任命されることを求めます。

以上